

熊野信仰

1. 熊野の神々

(1) 三山の主祭神

熊野牟須美大神(伊邪那美大神)

伊邪那岐大神とともに国土の基礎を築き、多くの神々を生まれた我が国の根本神。「日本書紀」には紀州熊野の有馬が大神様のお隠れになった地と記されており、三重県熊野市有馬の花窟神社がその地とされている。那智大社(新熊野神社)の主祭神。

事解之男神

速玉之男神:速玉大社の主祭神

家津美御子大神(けつみみこのおおかみ)

別名を熊野坐大神(くまぬにますおおかみ)、本宮大社の主祭神 家津美御子大神 = 素盞鳴尊といわれているが、これには諸説ある。大神は御身の御毛を抜いて、種々の木を育成させた事により、木の神と称えられ、木(紀)の国の名の起こりは大神様の御神徳によるものと伝わる。

(2) 祖先神

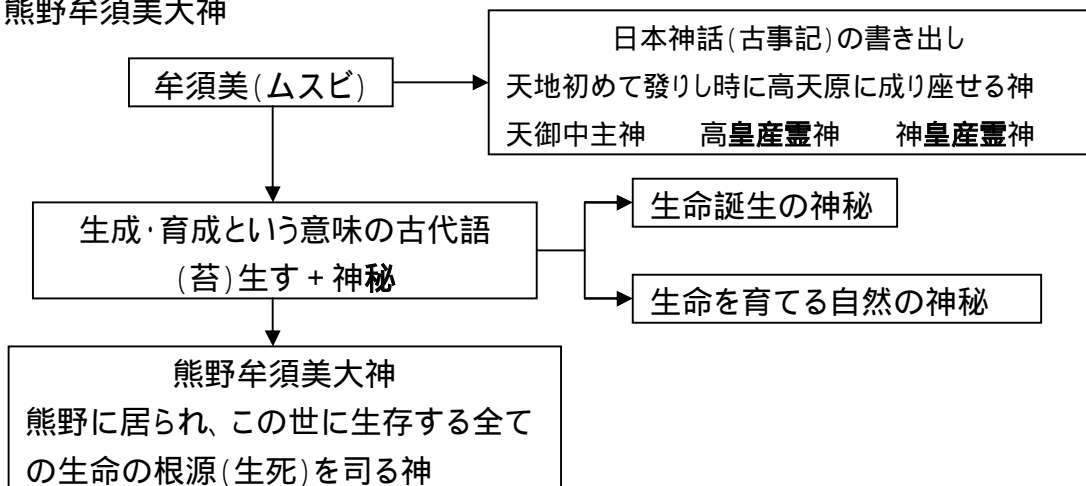
伊邪那岐大神 天照皇大神 忍穗耳命 瓊々杵命 彦穗々出見命(山幸彦) 鵜葺草葺不合命(神武天皇の父)

(3) 自然神

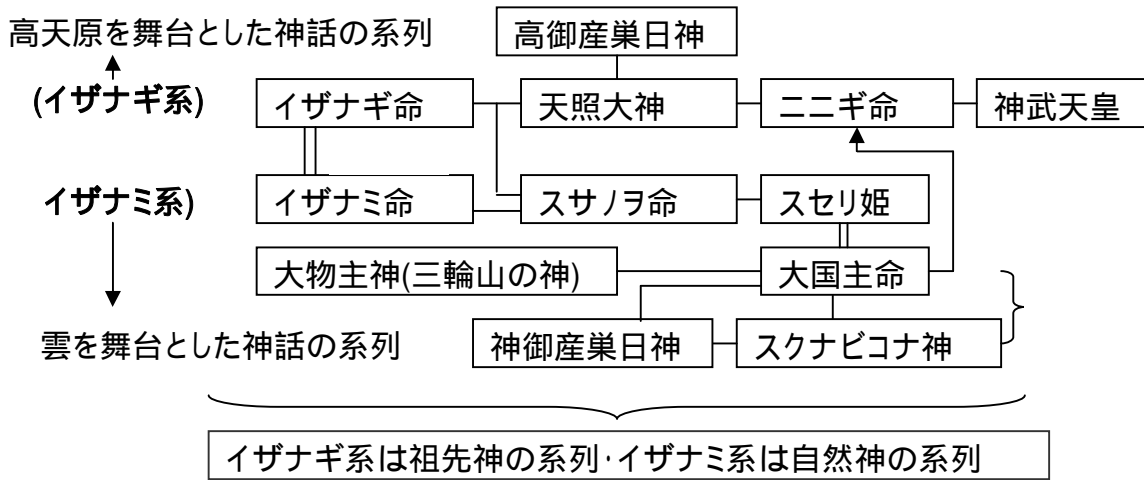
軻遇突智命;火の神、伊邪那美大神は軻遇突智命様を生む時に亡くなられた。

埴山姫命;土の神 弥都波能売命:水の神 稚産霊命:穀物の神

2. 熊野牟須美大神



3. 神々の系譜(日本神話:古事記)



イザナギ・イザナミ命が協力して生まれた神々

- 家屋を守護する神 6神
- 海や川を統べる神 4神
- 風・木・山・野の神 4神
- 交通・食物・火の神・鉱山の神・農業の神 8神
- 精錬の神・雨を司る神 8神
- 山を支配する神 8神
- 水を司る神 8神
- 1 道路・峠・谷間・尾根を司る神 5神

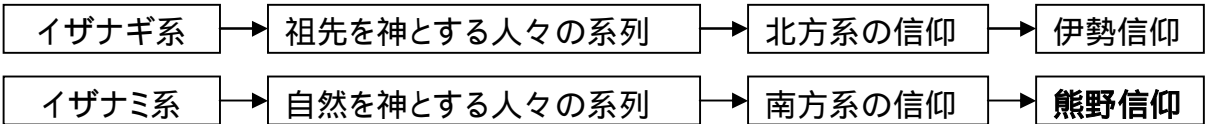
全て自然神

イザナギ命単独で生まれた神(禊祓え)

- 衣服を脱ぎ捨てたときに生まれた神 12神
- 水浴中に生まれた神 穢れを取り除くための神 6神
- 阿曇氏の祖先神 3神 住吉の神(海人族の祖先神)3神
- 三貴神(天照大神・月読命・スサノヲ命)天照大神は天皇家の祖先神

当初は黄泉国の穢れを取り除くための神が生まれた
たが、その後次第に祖先神へと変化していく。

これ以降、日本神話に登場される神のほとんどは祖先神



4. 日本人の心の故郷

熊野越え

南方系の人々:祖先の辿った道

北方系の人々:神武東征の道

熊野三山

那智の滝:熊野の神々の象徴(自然神)

速玉大社:紀伊半島の上陸地点

本宮大社:熊野越えの中間点「峠」

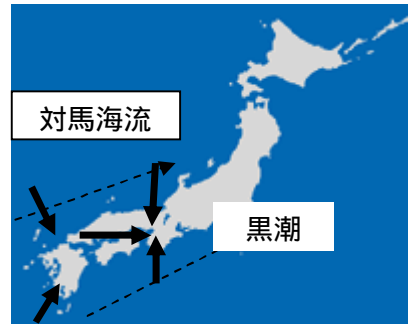
聖地熊野

聖地の入り口:吉野

真言密教の総本山:金剛峰寺(高野山)

神道の総本山:熊野三山

修験道の総本山



神仏習合思想の総本山

5. 御神木・御神鳥

榊(ナギ)の木

中国の海南島や台湾等に自生するイチブ科の常緑樹。太古黒潮に乗って南紀四国九州などの温暖な地方に定着したといわれている。常緑樹は古代から不老不死・健康長寿のシンボルとしては神聖視されていた。つまり、中国南部に住む人々にとって神聖な木とされていた「榊」が熊野の御神木とされているところから見ても、熊野信仰の原点が何処にあるか、を暗示している。また、榊は風に通じるとして、昔から海上安全、家内安全、夫婦和楽の信仰があり、熊野詣での印にナギの小枝を手折った事が古書にも記されている。



速玉大社の「榊」

八咫鳥(ヤタガラス)

日本神話、神武東征の際、タカミムスビによって神武天皇の元に遣わされ、熊野から大和への道案内をしたとされる三本足の鴉。しかし三本足と明記はされていない。咫とは長さの単位(約18cm)。八咫ガラスとは、 $18 \times 8 = 144$ cmのカラスという意味でなく、大きなカラスという意味。

三足鳥伝説は世界各地に残っており、「淮南子(えなんじ)に昔、広々とした東海のとほりに扶桑(日本の異名の一つ)の神樹があり、十匹の三足鳥が住んでいた……。と見える。この10匹の三本足の鳥が順番に空に上がり、口から火を吐き出すと太陽

になるという。また、高句麗(こうくり:朝鮮)では天孫の象徴であるとされ、壁画古墳も三本足の鳥が描かれている。また、ギリシャ神話には太陽神アポロンの神鳥として描かれている。本来白かったが、アポロンの怒りを買い黒くなった。熊野本宮大社の八咫鳥も色は白である。

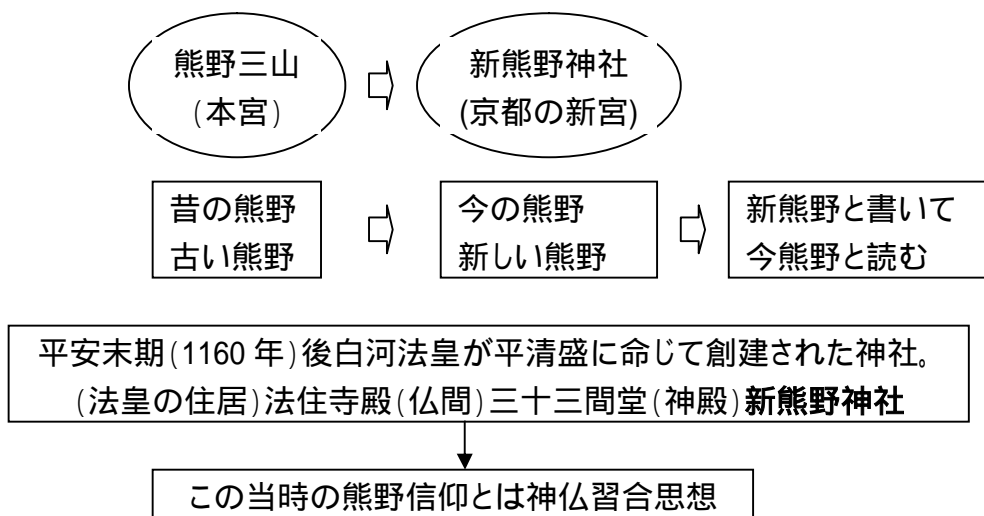
御神木・御神鳥の意味

植物+動物で自然を象徴させており、自然そのものの中に神が存在するという自然神信仰がその原点。つまり、榊が熊野で最も神聖な植物、鳥が最も神聖な動物であり、それによって熊野の神の存在を暗示している。

本来、神は姿形のない無の存在であり、本質的には神を形に表すことをしない(偶像崇拜禁止)。これは世界の常識で、キリスト教でもイスラム教でも偶像崇拜は禁止されている。仏教の仏像崇拜は宗教的には異端。つまり、神や仏の偶像を作ること自体が不敬罪に相当する。

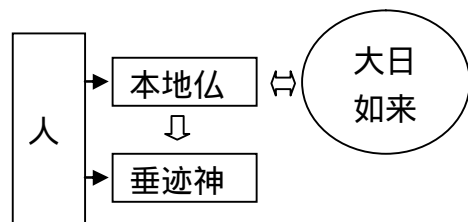
6. 神仏習合の総本山

新熊野神社(いまくの)の由来



蟻の熊野詣で

垂迹神(権現:仮に現れる)	本地仏
熊野牟須美大神	千手観音
速玉之男神	薬師如来
家津美御子大神	阿弥陀如来
天照皇大神	十一面観音

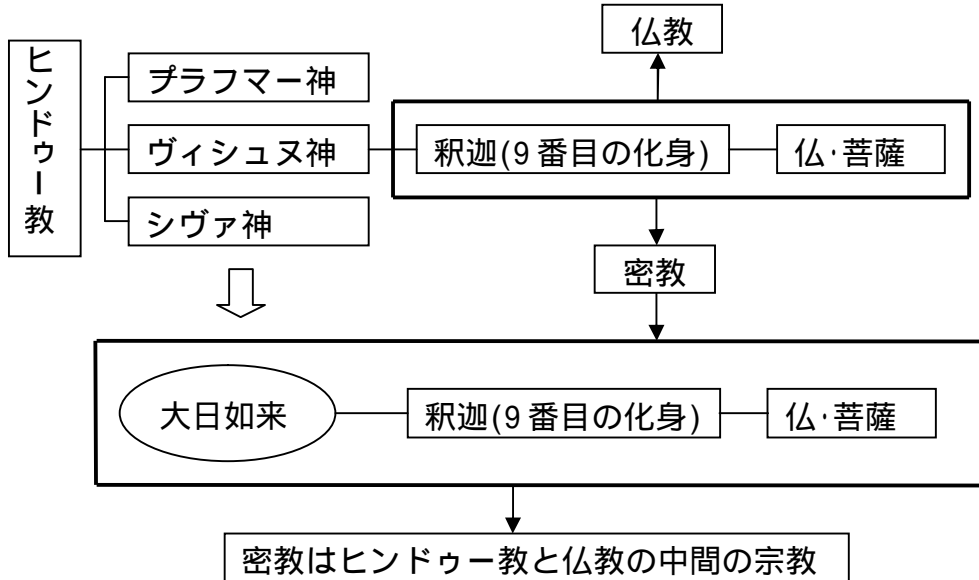


本地垂迹説(仏主神従)

* 一遍上人が本宮大社で阿弥陀如来に導かれて時宗(浄土宗の一派)を開く。

神仏習合思想

1. ヒンドゥー教と密教



2. 密教の教義

密教の根本経典は「大日経」と「金剛頂経」(注 12 この二経を密教では両部大経という)で、「大日経」に描かれている仏の世界が胎蔵界曼荼羅に、「金剛頂経」に描かれている仏の世界が金剛界曼荼羅に描かれている。密教ではこの二経の説くところを修し、心に仏を観じ(観想)、口に陀羅尼(だらに)を唱え、手に印契(いんげい)を結べば、仏・菩薩と感応し、即身成仏すると説いている。陀羅尼とはサンスクリットのマントラ mantra、「仏の真実の語」という意味で真言宗の語源、印契とは、仏の悟りの内容を示す手指の形「ムドラー」を指している。



金剛界曼荼羅



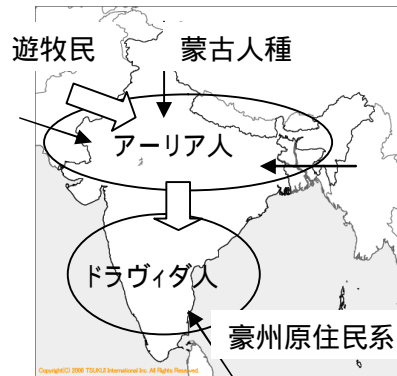
胎蔵界曼荼羅

密教の仏・菩薩は八百万の神々と習合したが、他宗派の仏・菩薩は八百万の神々と習合していない。つまり、この両者は本質的に異なる存在。

3. インド社会と古代日本社会

インド人

インド社会は約 10 億人の国民と多様な人種、民族、言語、宗教で形成されている。インドには有史以前からユーラシア大陸の各地から何派にもわたって様々な集団が流入してきたため、黄色、白色、黒色等、多様な肌の色の人達が暮らしてきた。南インドに多く住む黒色人種ドラヴィダ人は地中海周辺の農耕地帯に起源を持ち、紀元前 3500 年頃インドに移住してインダス川流域で農耕を行い、インダス文明を築いた。その後、紀元前 1400 年頃ヨーロッパ系遊牧民族アーリア人が侵入し、ドラヴィダ人を奴隷化して北インドを支配した。その支配体制を強化するためにカースト制度を作った。このアーリア人の宗教がヒンドゥー教の前身バラモン教である。そして紀元前 1000 年頃になると東のガンジス川への移動が始まり、ガンジス文明が形成されていく。それにつれてアーリア人とドラヴィダ人との混血が始まり、宗教的な融合が始まった。これがヒンドゥー教の始まりである。一方、多くのドラヴィダ人がアーリア人の迫害から逃れるために南インドへと移住した。インド社会はこのアーリア人とドラヴィダ人を中心に、ドラヴィダ人が侵入する以前からインドに住んでいたヴェッダ人などのインド亜大陸先住民族、蒙古系黄色人種、白色人種、オーストラリア先住民族系とされる人種などによって形成されている。



言語

言語はイギリスの植民地であったことから英語の影響が強く、現在も共通語的役割を果たしており、憲法も英語で書かれているが、英語を公用語としているわけではなく、インド憲法では 22 の言語を公用語として規定しており、そのうちヒンディー語を話す人が最も多く、約 4 億人(インド総人口の 40%)いるといわれている。しかし、上記公用語以外にも多数の言語があり、このことからインドは人種・言語の坩堝(るつぼ)といわれている。

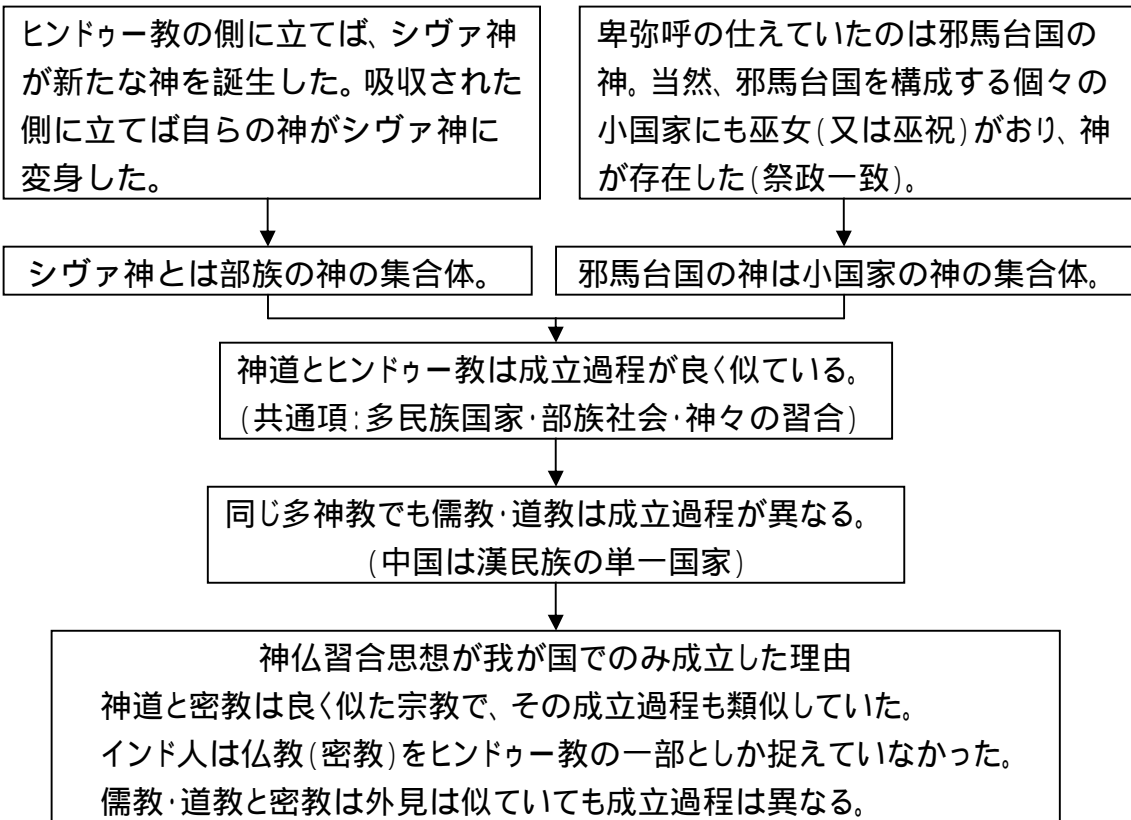
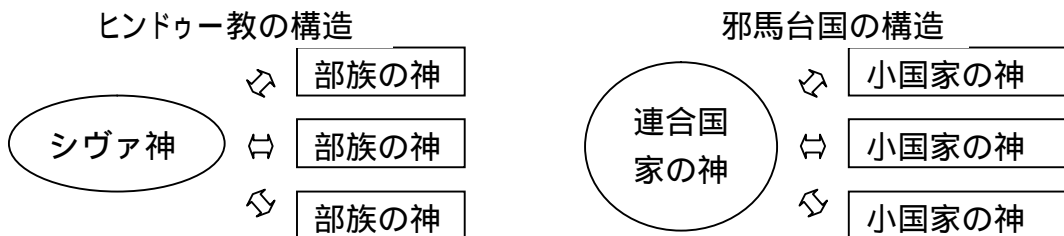
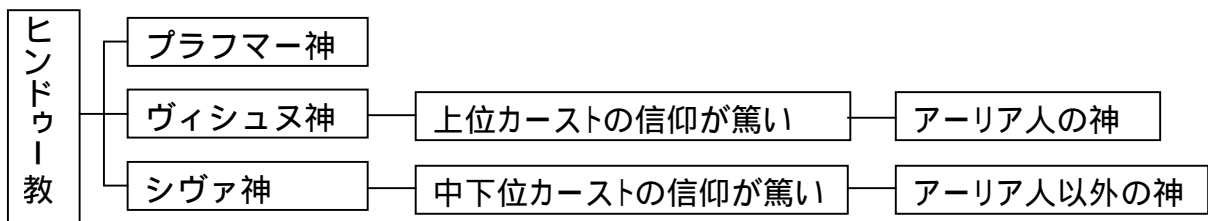
宗教

宗教はヒンドゥー教徒が総人口の 80.5%を占めており、次にイスラム教徒(13.4%)、キリスト教徒(2.33%)、シク教徒(1.84%)、仏教徒(0.76%)、ジャイナ教徒(0.40%)、アイヤーヴァリ教徒(0.12%)となっている。つまり、インドは部族社会で人種×言語×宗教の数だけ部族が存在し、インド社会を構成している。

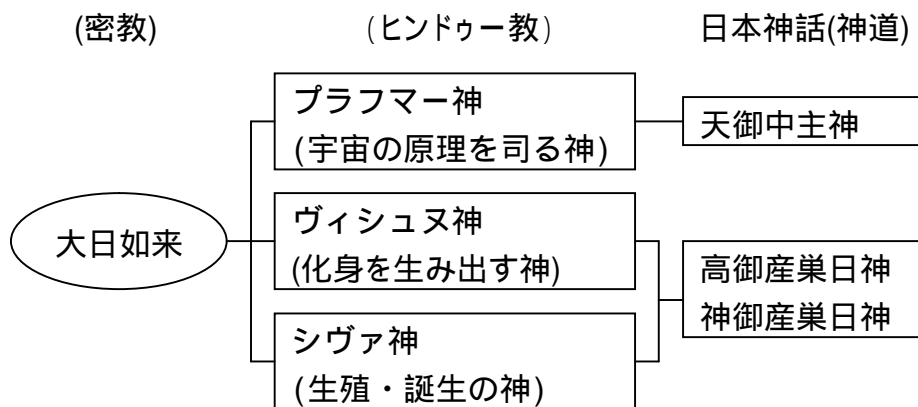


インドは部族社会で、人種×言語×宗教の数だけ部族が存在する。我が国もインドと同様の部族社会(氏族社会)であったが、インドはカースト制度の結果、混血ができず部族社会が現在でもそのまま残っている。

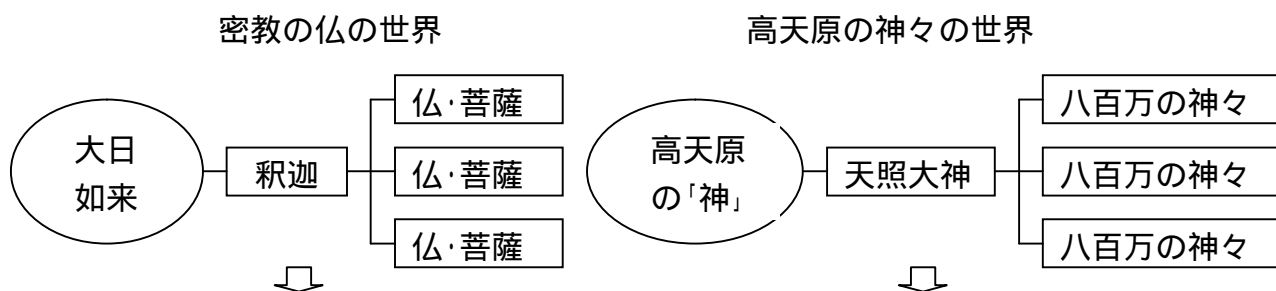
4. ヒンドゥー教と神道



5. 密教と神道
神観念



曼荼羅と高天原の神々



元々、曼荼羅の中央には釈迦が描かれていた。それが大日如来に替わったのは8世紀頃。密教にとって釈迦が最も重要な仏であることに変わりはない。

天照大神は高天原の巫女。巫女とは、神託を人々に伝えるのが役割で、我が国古代社会では最も重要な職務とされていた(祭製一致)。高天原は人間世界の縮図として描かれている。

悟りの境地。

密教
心に仏を觀じ、口に陀羅尼を唱え、手に印契を結べば、仏・菩薩と感応し即身成仏する

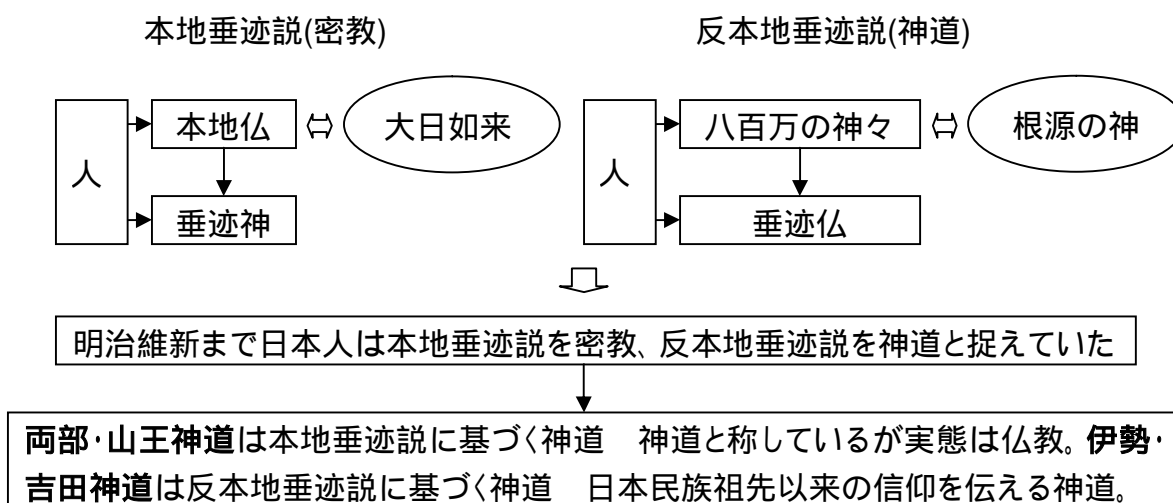
神道
心で神を觀じ、口に「祓詞」を唱えながら、真水で身体を清めれば自らの心が神の御心と一体となることができる。

現世利益

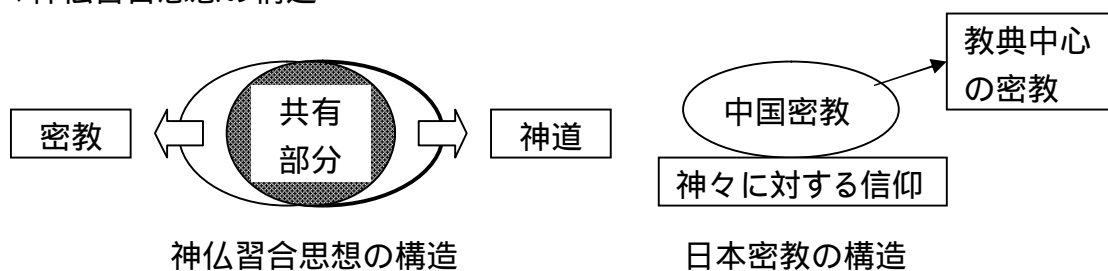
仏教で現世利益を求めるのは密教だけ。

加持祈祷
慈悲(加)と信心(持)が一つになったとき、加持の力が生じ、ご利益が得られる。加持の力を付けるために行う修行が「加持行」(神道は修行を必要としない)

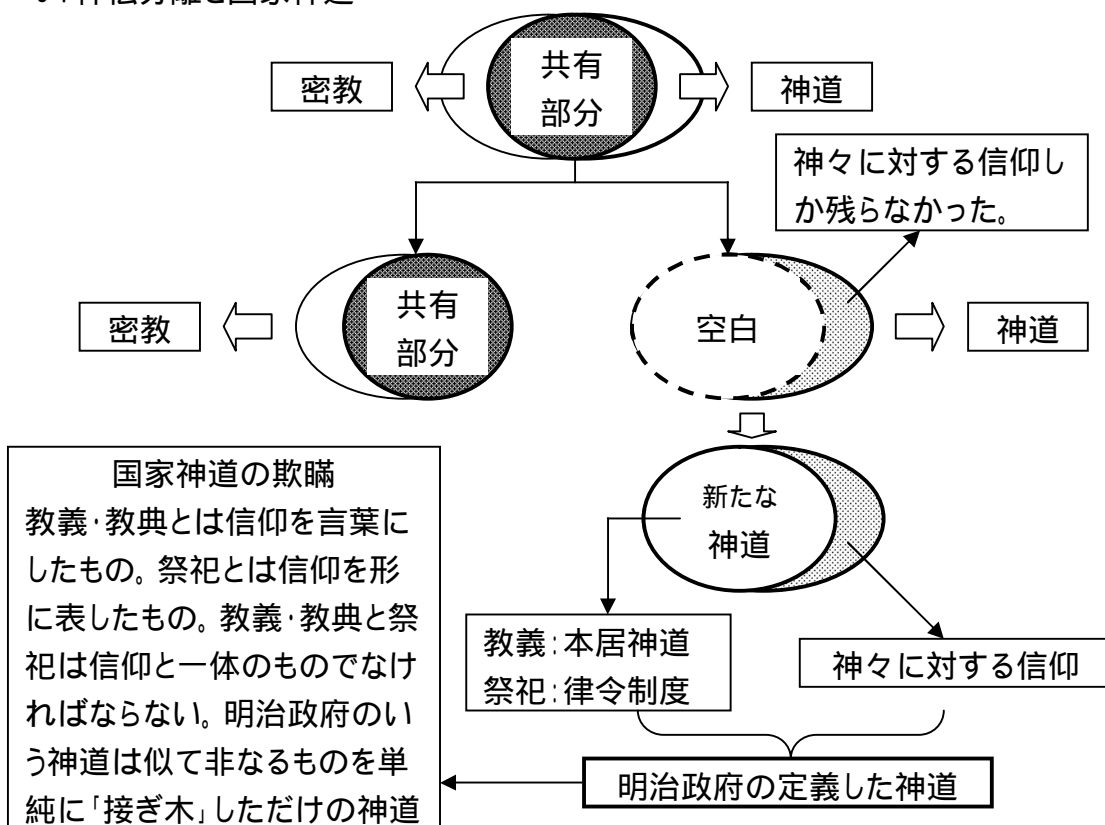
6. 本地垂迹説と反本地垂迹説



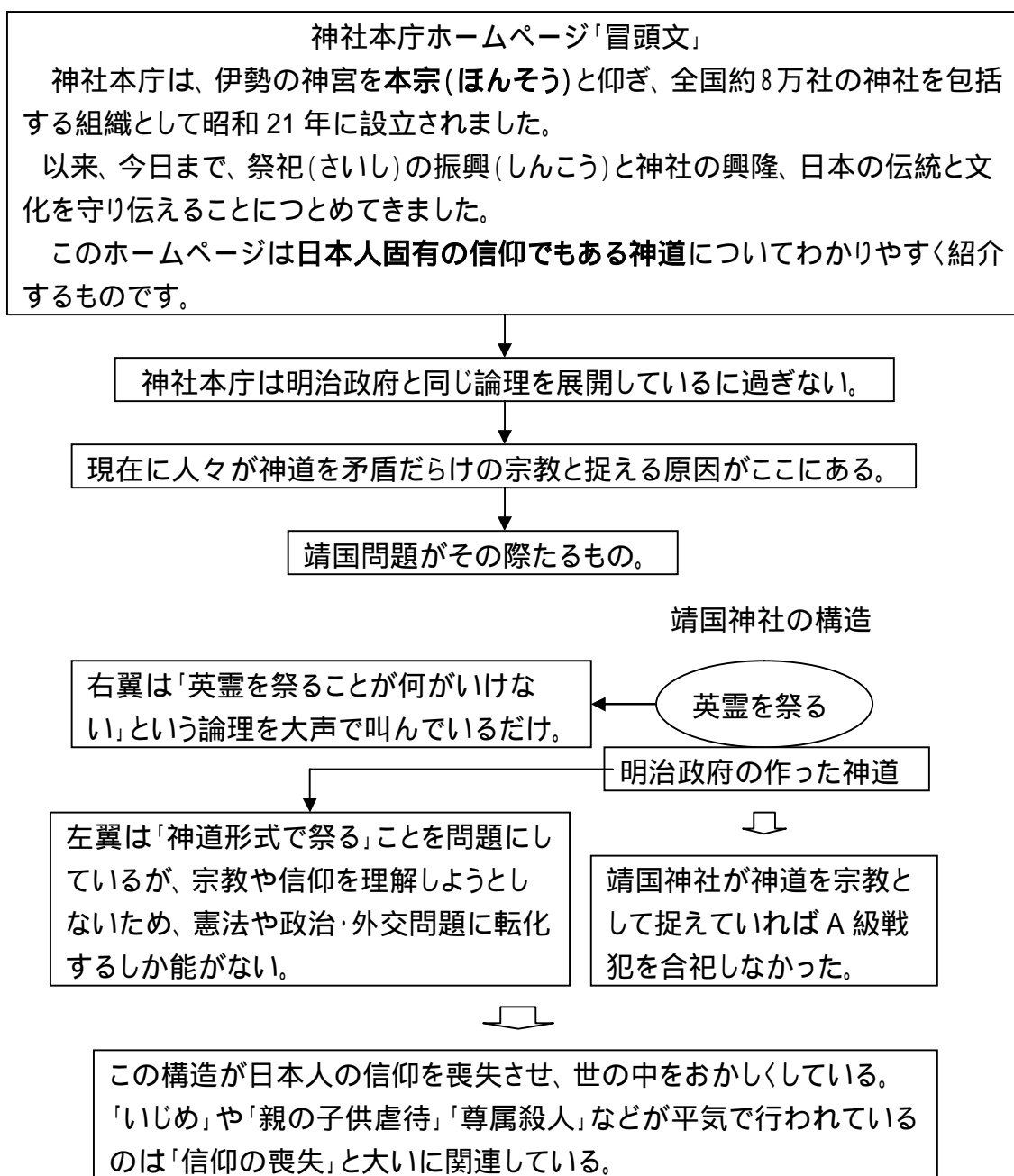
7. 神仏習合思想の構造



8. 神仏分離と国家神道



9. 現在の神道



神道講座テキスト

(第1回)

平成18年3月5日(日)